

ベッコウトンボ 守る

岩井里山の会 桶ヶ谷沼でいけす造り



腹まで泥に漬かり、いけす造りに励む会員たち＝磐田市で

絶滅危惧種のベッコウトンボを増やす活動をしているNPO法人「岩井里山の会」が、磐田市の桶ヶ谷沼で、ベッコウトンボが羽化できる新しいいけすを造り始めた。アメリカザリガニからヤゴなどを守り、沼の植生を復活させたい考えだ。

(宮沢輝明)

アメリカザリガニの被害防ぐ

ベッコウトンボは、ことで、沼の植生をよかつては宮城県以南のり自然な形に近づけ本州や四国、九州に広がる。会員は十一月下旬か沼の減少により、現在ら週末に、腹まで泥には本州では桶ヶ谷沼漬かりながら、柄の長と山県だけになっいすきやくわで土をかき出し、アシなどの根

桶ヶ谷沼でも数年を切って運び出している前、アメリカザリガニの大発生で絶滅の恐れがあった。アメリカザリガニが侵入できないように幅、奥行きともてたいけすを沼に埋め四辺、深さ四十センチほどる予定。一年で二個ずつ設置し、四年後までの協力により設けるなに十個を造る計画だ。として防いだ。

NPO法人の加藤佐登志理事長は「水生植これまでとほぼ同じ大物のマコモやタヌキモきさで、深さを一辺ほが茂る沼を再生したどにした新しいいけすい。なるべく自然な状態を設ける。下部にこれ態でベッコウトンボがまで付けていた板敷き増えれば」と話している。を付けないようにする。